

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 仁和寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 境内地は周囲より標高が高く、周囲から境内の建築物等を見ることはできない。
- ・ また、広大な境内地であり、敷地内の樹木が目隠しとなり、境内から周囲の建築物等はほとんど見えない。



1-1 境内地北東部から北への眺望
：土塀の外側に住宅の屋根が見える。



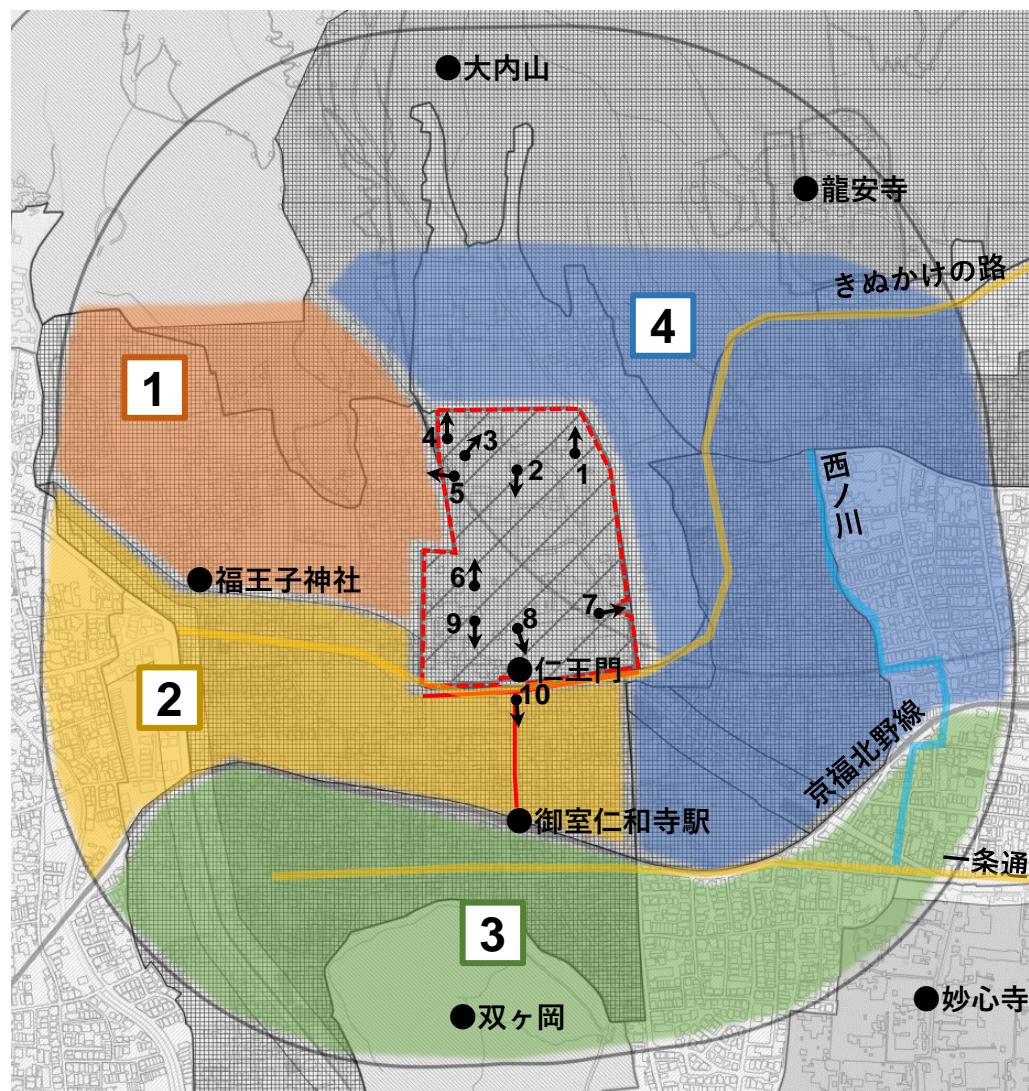
1-2 金堂前から南への眺望
：双ヶ岡が遠望できるが、周囲の建築物等は見えない。



1-3 御影堂から北東への眺望
：北側の建築物やフェンスなどが見える。



1-4 御影堂から北への眺望
：境内地北西から北に住宅が見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 西門から西への眺望
：門前の和風住宅の石垣や植栽が見える。



1-6 霊明殿から北への眺望
：境内の樹木により周囲の建築物等は見えない。



1-7 東門から東への眺望
：仁和寺の駐車場の土塀が見える。



1-8 境内から南東への眺望
：きぬかけの路を挟み、土塀越しに3階建ての建築物の屋根等が見える。



1-9 御殿から南への眺望
：境内の樹木により周囲の建築物等は見えない。



1-10 二王門から南への眺望
：緑豊かな和風の建築物が立ち並び、良好な門前景観を形成している。

2 仁和寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・北山と双ヶ岡に挟まれた丘陵地で、京福電鉄の線路により丘陵部を切り通した特徴的な地形など、起伏にとんだ地形が多い地区である。
- ・双ヶ岡北側の一条通沿いには古い集落が形成されている。



2-1 境内地北から南への眺望
：京都市街が遠望できる。



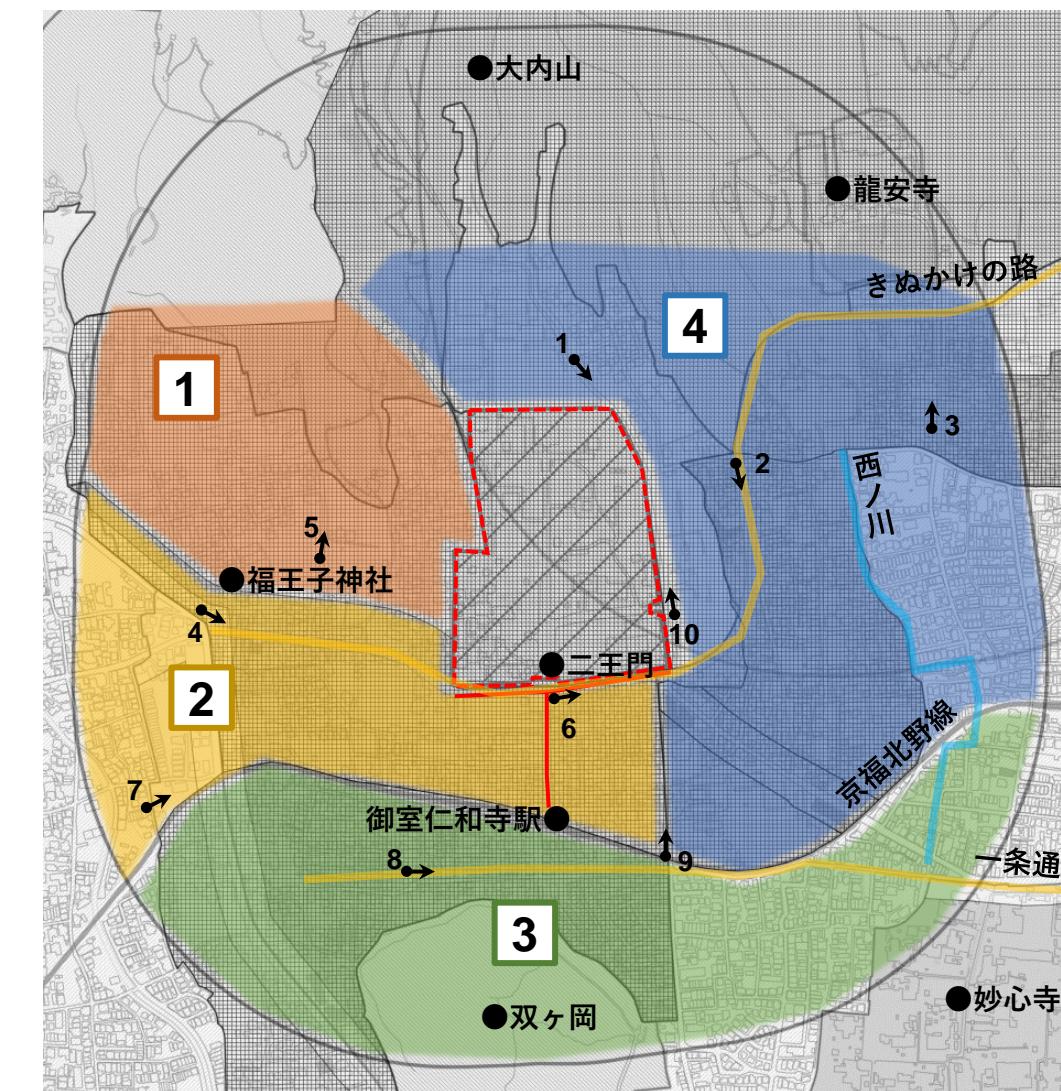
2-2 きぬかけの路から南への眺望
：石積みと低層の住宅や商店が並ぶ。



2-3 龍安寺道から北への眺望
：緑豊かな低層住宅の町並み。遠くに衣笠山が見える。



2-4 福王子神社前から東への眺望
：周囲には低層の建築物が立ち並ぶ。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



2-5 仁和寺西の住宅地から北への眺望
：和風住宅が立ち並ぶ。



2-6 きぬかけの路から東への眺望
：仁和寺の土塀や社叢と、低層建築物が良好な門前景観を形成している。



2-7 京福電車線路北から東への眺望
：京福電車の線路により丘陵部を切り通した地形で、ここより西は桜並木の名所。



2-8 一条通から東への眺望
：近代和風建築や古い住宅が点在する。

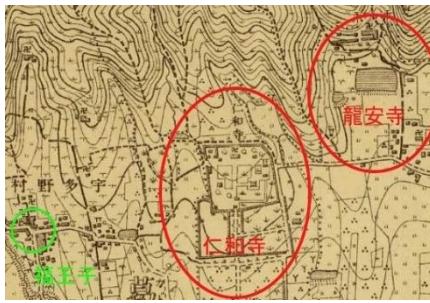
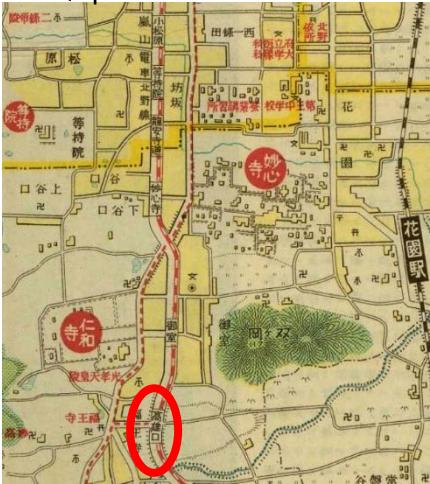


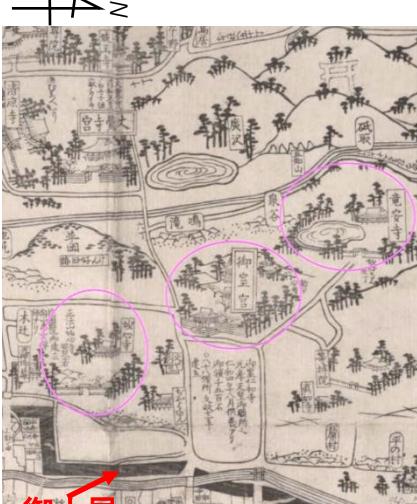
2-9 一条通から北への眺望
：住宅の生垣や御室小学校の樹木が連なり、緑豊かな町並みを形成している。



2-10 仁和寺東から北への眺望
：両側に境内地があり、落ち着いた景観。

3 仁和寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

| 1 仁和寺西側 | | 参考写真等 |
|-----------|---|---|
| ア エリアの歴史等 | <p>・宇多野福王子町は、周山街道ときぬかけの路との交差点であり、交通の要衝である。また、名前の通り福王子神社が古来より存在する。大字の「宇多野」は、福王子・鳴滝一帯を中心にひろく花園の地も含まれたと思われる。明治22年の地図「京都」では、仁和寺の西は山裾が広がるばかりで、福王子の付近の周山に続く古道の傍に人家が確認できる程度である。</p> |  <p>3-1 「京都」明治22年（1889）</p> |
| イ 町並みの特徴 | <p>・北側の山間部には御陵が多く点在しており、参道などがある。また御室八十八カ所巡りの地でもあり、地域住民の散策路となるなど山が身近に感じられる地域である。</p> <p>・御陵や寺社が多く残されている一方、古い住宅等はあまり見られず、比較的新しい町並みである。</p> <p>・山麓には宇多野小学校があり、その周辺部は閑静な住宅街となっている。住宅街が発展する前は造園業者の敷地が広くあり、石材や植栽が保管されていたが、現在は少なくなっている。</p> <p>文化財等：福王子神社</p> |  <p>3-2 「大京都市街地図」昭和2年（1927）</p> |
| ウ 景観形成方針 | <p>風致地区</p> <p>仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域</p> |  <p>3-3 御室八十八カ所</p> |
| | <p>衣笠山から西山に連なる山地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。</p> <p>仁和寺及び龍安寺の境内の緑と一体となった景観保全する。</p> | |
| エ 求める配慮事項 | <p>これらの緑豊かな和風空間の維持を図る。</p> <p>敷地規模に留意し、建築物は、原則として日本瓦ぶき和風外観とする。</p> |  <p>3-4 仁和寺西の生垣や和風塀が続く住宅地。奥には仁和寺の五重塔が見える。</p> |

| 2 仁和寺南西側 | | 参考写真等 |
|-----------|--|--|
| ア エリアの歴史等 | <p>・旧御室門前村は、平安時代、小松郷立屋里と称されていたと伝わる。仁和2年（886）光孝天皇の御願により、大内山山麓に仁和寺造営が着手され、宇多天皇の時代、仁和4年（888）に完成。法皇が御座する室ゆえに御室と呼ばれた。</p> <p>・宇多野は、福王子・鳴滝一帯を中心にひろく花園の地も含まれたと思われる。「日本後記」大同元年（806）3月19日条に「以山城国葛野郡宇太野為山陵地」とみえ、宇太野と記され、当地を山陵の地と定めている。</p> <p>・京福電鉄北野線「宇多野」「御室仁和寺」が本エリアの南端を走る。京福電鉄北野線は1925年（大正14）創業。開通当時「宇多野」駅は「高雄口」駅という名だった（図3-2）。</p> |  <p>3-5 「改正京町繪圖細見大成」天保2年（1831）画面下に御土居が描かれ、古道によってつながる3つの寺がわかる。</p> |
| イ 町並みの特徴 | <p>・京福電鉄の線路と仁和寺にはさまれた少し高台になった丘陵地である。</p> <p>・御陵や寺社も立地しているが、その周囲は住宅地となっている。昭和初期ごろに開発された双和郷と呼ばれていた住宅地にあたる。近傍に映画撮影所が多く立地していることから映画関係者が多く住んでいたとされ、地域の氏神であったと思われる双和郷稻荷大明神などが、その名残を残している。現在は大きな敷地割りの住宅が建ち並び、庭の植栽や生垣などの緑が豊かで閑静な住宅地となっている。</p> <p>・仁和寺門前の一帯は、仁和寺門前まちづくり協議会の区域となっており、仁和寺門前の門前町固有の景観と静かな環境、古都の風情を保全し、後世に継承していくことを目的とした活動を行っている。</p> <p>・観光道路となっているきぬかけの路沿いは、仁和寺、福王子神社などの寺社や、低層の和風住宅や商店が立ち並ぶ落ち着いた町並みとなっている。</p> |  <p>3-6 双和郷稻荷大明神の鳥居が見える住宅地。</p> |
| ウ 景観形成方針 | <p>風致地区</p> <p>仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域</p> |  <p>3-7 落ち着いた閑静なたたずまいの住宅地</p> |
| | <p>仁和寺門前地区は、緑豊かな和風邸宅が連なる趣のある景観を醸し出し、大門の門前においては、正面参道と一体をなす門前景観として眺められ、全体として和風感ある景観形成が図られている。</p> <p>仁和寺門前では、御室駅から仁和寺大門に続く、広々として落ち着いた門前景観を保全する。その他の住宅地においては、仁和寺の境内の緑と一体となった景観を保全する。</p> | |
| エ 求める配慮事項 | <p>きぬかけの路沿いでは、高さ規制や建築物の和風デザイン等に配慮する。</p> <p>敷地規模に留意するとともに、建築物は日本瓦ぶきの和風外観とする。仁和寺門前では、加えて、十分な敷地内緑化を図る。</p> |  <p>3-8 仁和寺門前のきぬかけの路</p> |

4 仁和寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

| 3 双ヶ岡北側 | | | | | |
|-------------------------------------|--|-----------|-------------|-------------------------------------|---|
| ア エリアの歴史等 | <p>・西ノ川沿い、衣笠山と大内山との間の谷口にあたる場所から、古くは谷ノ口と称した。宝徳2年地内北方の朱山の麓に臨済宗龍安寺が建立され、同4年同寺寺領となったため、龍安寺門前と改称されたという。しかし、谷口の名称が近代に至るまで併用されている。天正17年一部が妙心寺・等持院領に割かれた。</p> <p>・大正14年（1925）に京都電燈が北野駅 - 高雄口駅（現・京福電気鉄道宇多野駅）間を開業し、1926年全通時に妙心寺駅ができた（図3-9）。</p> | | | | |
| イ 町並みの特徴 | <p>・双ヶ岡の緑を背景とした閑静な住宅地となっている。</p> <p>・エリアを東西に貫く一条通は、御室村の中心であった通りで、愛宕参りの参道でもあった。沿道に残る間口が広めの厨子二階の町家群がその名残を残している。近代和風建築で文化財である旧邸御室があり、存在感を出している。また一条通は、福王子神社の秋季大祭の際の御神輿の通り道ともなっている。</p> <p>・エリアの東側、京福電鉄の線路と妙心寺にはさまれたあたりは、京福電鉄の開通を機に昭和初期ごろから徐々に開発が進んだ地域である。一条通沿道では町家も散見されるが、戦後に立てられた住宅や商店が立ち並ぶ低層中密の町並みとなっている。</p> <p>文化財等：旧邸御室</p> | | | | |
| ウ 景観形成方針 | <table border="1"> <tr> <th>双ヶ岡特別修景地域</th> <th>山ろく型建造物修景地区</th> </tr> <tr> <td>双ヶ岡北側の御室駅以南では、双ヶ岡の緑と調和した町並み景観を保全する。</td> <td>歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。山々の内縁部には戸建住宅を中心とした良好な住宅地が広がっている。</td> </tr> </table> | 双ヶ岡特別修景地域 | 山ろく型建造物修景地区 | 双ヶ岡北側の御室駅以南では、双ヶ岡の緑と調和した町並み景観を保全する。 | 歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。山々の内縁部には戸建住宅を中心とした良好な住宅地が広がっている。 |
| 双ヶ岡特別修景地域 | 山ろく型建造物修景地区 | | | | |
| 双ヶ岡北側の御室駅以南では、双ヶ岡の緑と調和した町並み景観を保全する。 | 歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。山々の内縁部には戸建住宅を中心とした良好な住宅地が広がっている。 | | | | |
| エ 建築計画等に求める配慮事項 | <p>建築物は、日本瓦ぶき和風外観を基調とする。</p> <p>歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とするなど、和風基調の町並み景観を形成する。</p> | | | | |

参考写真等



3-9 「大京都市街地図」昭和2年（1927）



3-10 旧邸御室付近の一条通の町並み



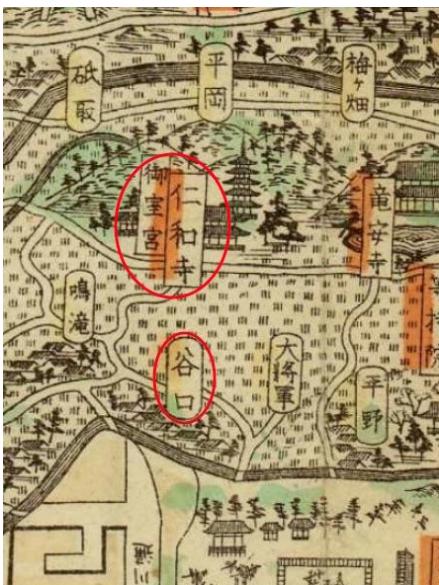
3-11 踏切の向こうに仁和寺が見える



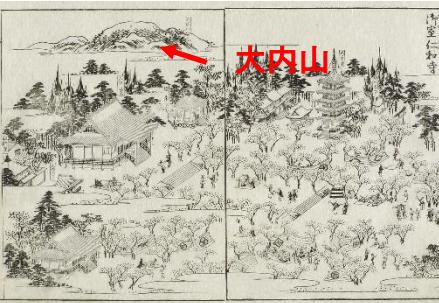
3-12 京福北野線に近い一条通の町並み

| 4 仁和寺北側～東側 | | |
|--------------------|--|---|
| ア エリアの歴史等 | <p>・西ノ川沿い、衣笠山と大内山との間の谷口にあたる場所から、古くは谷ノ口と称した。宝徳2年地内北方の朱山の麓に臨済宗龍安寺が建立され、同4年同寺寺領となったため、龍安寺門前と改称されたという。しかし、谷口の名称が近代に至るまで併用されている（図3-13）。天正17年（1589）一部が妙心寺・等持院領に分かれた。</p> <p>・都名所図会にも仁和寺とあわせて大内山が描かれている。</p> | |
| イ 町並みの特徴 | <p>・傳法輪寺や蓮華寺、住吉大伴神社などの寺社が多く立地しており、その周囲は、生垣や庭の樹木など緑豊かな閑静な住宅地となっている。</p> <p>・これらは昭和初期以降徐々に市街化が進んだ地域であり、戦後に立てられた住宅が多いが、生垣や緑が多く配され、落ち着いた町並みが続いている。</p> <p>・エリア内の南北の通りからは、北に衣笠山を望むことができ、宇多天皇が山に白絹をかけて雪に見立てたとの故事を思い起こさせるなど、歴史を感じさせる風景が身近にある地域である。</p> <p>・きぬかけの路沿いには、低層の和風住宅や社寺の石垣や緑が並び落ち着いた町並みとなっている。</p> | |
| ウ 景観形成方針 | <p>山ろく型建造物修景地区</p> <p>歴史的資産があり、その周辺は山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。山々の内縁部には戸建住宅を中心とした良好な住宅地広がる。</p> | <p>風致地区</p> <p>きぬかけの路沿道においては、山林・生垣・和風塀が並んでおり、緑豊かな落ち着いたたたずまいを呈している。</p> |
| エ 建築計画等に求める配慮事項 | <p>家屋は道路から後退して樹木も多く、落ち着いた景観が見られ、これら沿道景観の風趣の継承を図る。</p> | <p>既存樹木の保存に努め、道路側には生垣又は和風塀を設ける。建築物は日本瓦ぶき和風外観とし、きぬかけの路沿道では、切妻平入形式とする。</p> |

参考写真等



3-13 「新版京都地圖」明治38（1905）



3-14 「都名所図会」安永7年（1780）より「御室仁和寺」



3-15 傳法輪寺と住宅地の町並み



3-16 住吉大伴神社の南付近の町並み

- 3-1 「京都」図書館資料ID 001084623 (https://lapis.nichibun.ac.jp/chizu/map_detail.php?id=002469278)
- 3-2 「大京都市街地図」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「改正京町繪圖細見大成」図書館資料ID 001449503 (https://lapis.nichibun.ac.jp/chizu/map_detail.php?id=001449503)
- 3-9 「大京都市街地図」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-13 「新版京都地図」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)